

インフラとデザイン

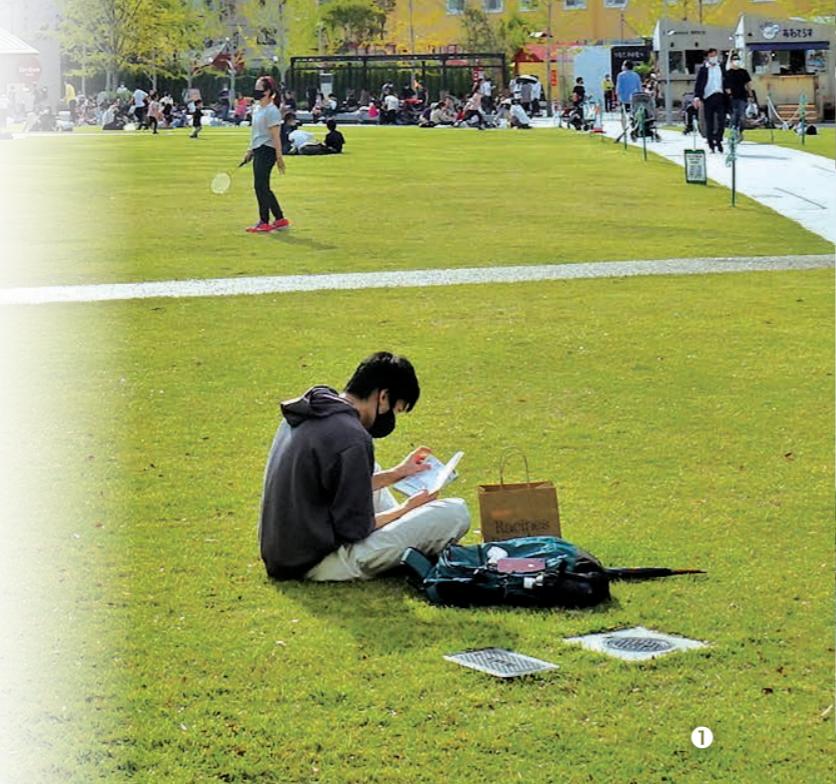
近年、「デザイン」といった言葉を、
インフラ整備と共に聞くようになりました。
「デザイン」の定義は諸説ありますが、
言葉の使われ方を踏まえ、
「文化や風習・地域の特性に合わせて、
人が心地の良さを感じる空間作り」と定義してみます。

「人が心地の良さを感じる」をデザインとは、
計画や設計、施工のなかで、
地域や場所の課題を解決していくことにより、
実現されるものだと考えます。

作り手は、各インフラ施設の目的などを踏まえつつ、
「用（機能性・使いやすさ）・強（耐久性・安全性）・
美（芸術性・美観）」のバランスを考え
最適解を探します。

一方、ライフスタイルが多様化する昨今、
デザインが必要とされる領域は、かたちづくりだけでなく、
人の活動に関わる社会的な仕組みまで拡がりつつあります。

デザインについて考えることは、
インフラの新たな展開への手掛かりになるかもしれません。
近年のデザインに関する話題を通して
インフラのデザインについて考えてみたいと思います。



① イケ・サンパーク（東京都豊島区）／松元涼子

② 角島大橋（山口県）／佐々木勝

③ ハッ場ダム（群馬県）／松田明浩

④ Suicaのベンギン広場（東京都渋谷区）／石川遼太郎

⑤ 富岩運河環水公園（富山県）／松元涼子

⑥ 金沢駅（石川県）／佐治雅之